学会活動に望む支部の声

A　私は学会の研究普及を担当している者です．支部の方々のご意見は年に2回の支部長会議で出る，ということに形式上はなっています．しかしそこでは出ないようなもっと直接的なお話をしていただくことも，学会活動のためには必要なことと思いますので，このようなテーマが考えられたわけです．

皆さんの卒直なご意見をいただきたいと思います．

月例講演会

B　研究普及委員会担当の仕事の中に，月例講演会というものがあります．これには支部の方々にもご協力いただいていて，研究発表会を開く支部を除いて，年1回はやっていただくことになっています．まず月例講演会についていかがでしょうか．

C　7年程前になりますが，会員の声として月例講演会が東京ばかりで開かれるのは，不公平だと申し上げたことがあります．年に1回か2回，他の学会と共催という形でもいいから地方で開きたいと要望しました．さいわい受け入れてもらえ，喜んでいます．東京では年に5回位開催され，学会誌にその案内が載るわけですが，その講演会の内容がどんなものであったかという報告がなく，地方では詳しいことがわかりません．今後機関誌にそのような記事なり報告を，論文と同じように載せてほしいと思います．

D　たしかに今は載せていないようです．だいたい月例講演会のときには資料が出ますが，それを支部にお送りするということはかなり実現可能かと思いますが．

E　以前中国四国支部におりましたときに，毎月1回の研究発表会の要約を出席しなかった会員に送っていたことがあります．ですから支部に送っていただければ，一応支部で編集して各会員に配ることはできると思います．

F　1ページ位にまとめて，機関誌に載せられたらどうですか．

D　資料をお送りするのは非常に簡単です．しかし1ページにまとめるというのは，かなりよく理解した人でないと無理ではないでしょうか．

A　これから実行方法を検討して，とにかく何らかの方法をとるということにしたいと思います．

B　ではつぎに講師の人選についてはいかがでしょうか．前々から題目ごとに講師をあげて，地方からの要望に答えられるようなリストをつくろうという意見もあります．

E　本部のほうからの推薦と，支部で一応人選したのとだいたい7対3位の割合ですね．

G　私共のほうでは，こういうテーマでと希望を出して行なっております．人を選ぶのはなかなかむずかしいものですので，テーマについて講師のリストがあれば計画するのには便利です．ただ中にはどうもこの人では，というのが失礼ながらあります．そして地元で人を決めた場合には，本部でそのまま承諾していただきたいと思っております．

E　よく耳にするのですが，月例講演会について一方通行の傾向が強すぎるという感じがもたれています．たとえば本部の押しつけで講師がみえ，そのお話をただ聞くというように，聞くほうに対する配慮があまりなされていないように思われます．2時間やっていただけるのでしたら，前半の1時間を講演に，あとの1時間は質疑応答を含めた雑談にするのはどうか，という意見も出されています．ありきたりの月例講演会というものは，だんだん出席者が減る傾向にあるようにみえますが．

G　今のは結構なご意見だと思いますが，実際にやってみるとなかなかむずかしいことのように思います．講師の方は終わるとさっさと帰ろうとしますし，出席者も1人帰りだすと皆帰ろうとするのではないでしょうか．

F　月例講演会とは違いますが，私のほうの支部では研究紹介というような会合を開いております．参加者は30から40名程度のものですが，このときまず講師の人に1時間半講演してもらいます．それで一応打ち切りまして場所を変え，この場所を変えるのが大事なことなのですが，もう少し小さな部屋で今の講師と懇談するわけです．これにはだいたい10名程残るわけですが，話がはずむと1時間以上もつづくことがあります．いつもというわけではなく，2回に1回はこのような方式で行なっています．

D　先程，月例講演会における参加者の人数が減る傾向にあるというお話が出ましたが，必ずしもそうではない

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

と思います．この前，伊理先生の講演がありましたが大分盛況でした．企画のよさということもあると思います．

F　学会誌が変わるとき，本部から森村先生が支部との懇談におみえになりました．本部の役員の方が地方におでかけのときには，ご苦労さまですがあのような懇談の機会をもたなければならない，というようにしていただけるとよいのですが．なかなかむずかしい話だとは思いますが，あらかじめ支部に連絡していただいて少しの時間でも割いていただければ有難いと思います．

ORサロン

B　懇談の話が出ましたところで，話題をORサロンに移したいと思います．今までサロンが地方でやられた例はあるのでしょうか．

H　九州で研究発表会が行なわれたとき，1度やられています．出席者は前もって募集されていて，私は指名されて出席しました．

A　今回のようなテーマですと，いろいろな支部の人たちが集まったほうがいいわけです．しかし特定のテーマ，たとえばその地方特有の問題とか，であれば地方の支部の人たちだけでORサロンを開くことができると思うのです．期日も研究発表会に合わせる必要はないわけで，適当なテーマでやってみたいというご希望があれば大歓迎です．

F　月例講演会で講師が中央から来られたときに，講演会のあとで，席を改めてORサロンを開くというのはどうでしょう．

G　地方支部の場合人数を集めるのが大変です．

B　研究発表会のあとというのであれば，人数は集まるように思いますが．

G　それもむずかしいように思います．第1日目は懇親会があり，2日目は後始末がありますし，また後始末をしなくてもよい人たちは帰心矢の如しですから．それにあとでやらなければならない，テープから原稿を起こす仕事も考えますと．

B　原稿に関してはともかく，企画して開催していただけるか，またそういう機会があるかどうかという点はどうでしょうか．そしてカセットだけを本部に送っていただいて，こちらでまとめるとか．

I　原稿をまとめる人がサロンに出席していないと無理ではないでしょうか．

J　私の経験でも同感です．しかも原稿にしてから参加者全員に配り，それを直してもらってまとめるという作業があるわけです．それにはやはりサロンに出席していて雰囲気も知っていないとむずかしいですね．

A　そのためにわざわざ筆記係が本部から出かけるというのも，コストがかかりますね．

G　現在の地方支部の動員できる稼働力では，ちょっと無理でしょうね．地方支部は少ない人数でやっているわけですから，本部では無理なくできるようなものもむずかしいわけです．

B　ORサロンを，関連する作業も含めて，すべて地方にもっていくというのはむずかしいだろう．ただ原稿にまとめる作業を本部で引き受ければなんとかなるかもしれない，という程度にとどめておきましょう．

研究部会

B　つぎに研究部会に話を移します．現在関西で研究部会を一つもっていただいている以外は，すべて東京という具合に片寄っています．もっとも地方の会員の方をメンバーに入れている部会は多いと思いますが，地方の人たちを主体としてやっていただくというのはむずかしいのでしょうか．

G　私は以前，北海道で部会をもたせていただいたことがあります．北海道という地理的条件から，運営上むずかしいことがありました．レギュラーメンバーは9名でしたが，まず集まることが大変むずかしいわけです．もっとも，テーマによってはむやみに集まってもしょうがないもので，私共のテーマはじっくり考えなければならないものでしたから，集まった回数は少ないものでした．けれども郵便で交わした資料やノートは大量にのぼっております．何が何でも集まらなければならないというものでもなく，主査や幹事の動き方でかなりのことができるように思っております．

K　私の個人的な考えなんですが，支部だけで部会をつくるというのはむずかしい面もあり，人が集まってもせいぜい数人であまり面白くないと思われます．私が関心をもっているような分野ですと，東京での部会に面白そうなものがあるわけですが，それに入ってたびたび東京へ来るというのも交通費の問題もあるし，面倒な気がします．そこで，できれば部会での会合の資料を学会のほうできちんとつくっていただいて，そのメンバーになっていればいつでもそれが手に入り，また面白ければたまには会合に顔を出す，といったことが可能になるようにお願いしたいと思っています．つまりたびたび出て来な

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

くても部会でやられていることがわかるようにしていただければ，非常に有難いという気がします．

D　私共の部会でも毎回資料が出るわけですが，読んだだけで内容がわかるようなものでなければならないでしょうか．

K　なるべくそのほうがいいのですが，そうすると発表者が大変だということも確かにありましょう．最後に報告集が出る部会がありますが，あれだと終わってからわかるということになってしまうので，もっと早い時期に知りたいということです．どうせ報告集がつくられるなら，もっと早く資料という形で，ある程度わかるものをつくっていただくことはできないでしょうか．

A　実はいま，研究部会に短くてもいいから部会報告を書くことを義務づけ，それを機関誌に載せようという話になっています(1977年7月号から実施)．これが実現されれば，興味のあるテーマについて部会の主査か学会の事務局に，資料のコピーを請求することはできるようになると思います．もっとも地方の人たちに送るような資料を，各部会が用意しているかどうかわかりませんけれど．

L　東京での部会は理論的なものが中心になると思うんですが，地方ではその地方特有の問題というのがあるのではないでしょうか．地方特有の問題をテーマに取り上げて，研究部会をもっていただけると面白いと思います．先程の北海道支部でのお話はまさにそのようなものの例でしょう．そこでは画一的なものではなく，ローカルな興味深いものが出てくる可能性がある．たとえば，公害の問題，地方開発の問題，交通の問題等，現実に即した問題があると思うんですが，そのようなものをどこかの団体，たとえば県庁，市役所，地方建設局とかいうところと，学会の支部がうまくタイアップしてできないものでしょうか．

A　たとえば中国四国支部の場合，連絡橋の話や瀬戸内海汚染の問題がありますね．

L　うまくいけば実践的ORと地域性をもった非常に面白いものになるんじゃないでしょうか．

F　状況が，火は出ないにしてもくすぶっているようなときに，火つけ役として研究部会をつくるというのは有効だと思うんです．しかし問題はですね，何もないときには部会をつくろうとしても火がつかないかもしれない，ということです．

G　結局メンバーを集めることができるかどうかでしょうね．

F　ところで研究部会を設ける手続きや，満たさなければならない要件について教えていただけないでしょうか．

A　とくに決まった要件はありませんが，研究部会設立申請書というものがあります．それに研究テーマ，主査と幹事をはじめとするメンバーの構成，期待される成果等を書いて，12月頃提出していただくわけです．3月末までにそれを審査して決定し，4月からスタートできるようになっています．期間は原則として2年間で，延長を希望する場合もう1年延ばすことができます．そして学会のほうから費用として年間5万円支給されます．

D　人数に制限はないのですか．

A　何人以上でなくてはならないという制限はないです．もっとも主査と幹事だけでやるというのはまずいですが．

L　理事会で，これはだめだ，というのはないかもしれませんが，実質的にはまあちょっと待ってくれ，ということもあるんですか．

A　おそらく理事会で拒否されたことは今までないと思います．検討は研究普及委員会でやるわけですので，研究部会を設立したい場合，研究普及委員会のほうに問い合わせて相談していただくのがよいと思います．

F　支部の方々は，支部が中心となって研究部会をもってもいいのだということは，あまり知らないのではないでしょうか．

L　先程，支部では現実的な問題をといいましたが，その反面，たとえばある手法についてはどこの支部がメッカになっているからそこに行きなさい，ということがあってもいいのではないでしょうか．何も東京だけが理論の中心になることはない．いろいろな山が沢山あっていいと思います．もちろん東京には人が大勢いますから，多くの山があるのは確かでしょうが．

M　研究部会のレベルについては，どのように考えられているのでしょうか．地方の場合ですと層が薄いので，その点が大変気になるところですが．

A　そこで活動した人が研究発表会で何編か発表される，または論文誌や機関誌に投稿される，というのではどうでしょうか．

D　最初森口先生がおやりになったときの研究部会の主旨においては，まとめることよりもモチベーションを引き出すことに重きが置かれていたように思うのです．そうすると2年間であまり発表も出なかったけれど，その後3，4年たってから，論文が活発に出るということがあってもいいのではないでしょうか．

A　そうですね，何年か後に何編か出る，つまりリアル

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

タイムでなくてもいいということにしましょう.

D 今までの研究部会の例では，最初の2年が終了した段階でまだ継続したいという場合も多かったわけです．しかし前に述べたように，きっかけをつくればいいのだからという理由で,打ち切ったものもかなりありました.

E 予算の5万円の使い方に制約はあるのですか.

A 別にありません，ただ領収書を提出してもらえばいいわけです．だいたい，通信費，資料のコピー代，作業があればアルバイト代，会場費，場合によっては茶菓子代，等に支出されるわけです．会合のための食事代というのはとても出ないようです．ただし交通費の場合，普通領収書は出ないですから，妥当な理由をつけておけばいいと思います.

B 今動いている部会はいくつでしょうか.

A 51年度，52年度とも12部会です.

D それは3年程前に比較して，かなり増えましたね.

F 端的にいって，地方の場合，もし部会を設立しそれで少し会員の活動が活発になったとか，会員が増えたとか，そういう程度であっても一応効果があったということになりますか.

A なると思います．本来はそういうことも目的の一つだと思います．そこで今後とも地方の支部が中心となるような研究部会がなくならないように，また今よりは増えるように，できるだけ候補を出していただきたいと思います.

委託研究

B つぎに研究部会にある意味で似ているといえなくもない，委託研究に話を移します．地方で委託研究をやられた例はございますか.

G 北海道でありました．気象台からの委託でした.

L 地方に行けば委託研究はかなりあるように思います．地方はかなりいろいろな問題をかかえて困っているのが現状です．大学に頼む場合があり，他はきちんとしたところということで，さまざまな所を捜しているわけです．ですから学会としてやればいいと思うのですが.

B 学会で引受ける委託研究として，何か制約や内規のようなものがありますか.

A 非常に柔軟性がありますが，OR学会として恥ずかしくない成果をあげなくてはならない，ということが大前提です．一応内規があり，次の3原則，1)ORの進歩発展に役立つこと 2)研究成果を公開できること 3)私的利益に結びつかないこと，を満たさなければなりません．そして事務手続きはすべて学会事務局を経て行ないますので，委託費の一部は管理費として学会に収めていただきたいわけです.

L 実際に官庁から委託研究を受託しますと，監査を受けなければならないので面倒な点があります．ですから最初はお金をもらわないで一緒にやっていて，それで自分も勉強してプラスになったほうがいいように思いますが.

A 官庁の委託研究の場合には，あらかじめつくった予算書どおりにやらなければならない．だから作業の見通しと必要経費は，きちんと計画しなければなりません.

G 気象台からの委託研究では，それほどきちっとした制約はありませんでしたが.

A まあ委託研究については，学会で儲けるのが主旨ではありませんので，その地方の実情に合わせて，実践的ORの腕をみがき，さらに地方の人たちが相互に理解を深めるということでいいと思います.

D 私は会計についてよく知りませんが，東京でやる場合には本部に一部の費用を収めなければならない．ですから支部でやったら支部の事務局に収めればいいのではないでしょうか.

A 現状では学会に収めるという形ですから，全部本部に来てしまいます．支部でかかった通信費等はもちろんすべて実費で支払われるわけです．しかし支部活動を盛んにするためには何らかの工夫は必要なので，具体的なケースで打合せたいと思います.

D 今までのお話ですと，委託研究というのは実際になにかをやって仕上げる，というものにかぎられているようですが，講習というのはその範疇に入らないのでしょうか．たとえば地方の企業の人たちに，お金をとって教育講演をするといったようなものですが.

A 今の分類からすると，委託研究の部類に入れざるを得ないかもしれません．そのような活動をやることは非常にいいと思います.

D 目的が学会の財政を豊かにすることなのか，それとも普及にあるのか，研究にあるのか，ということにもよると思いますが.

A 目的はそれぞれあっていいのではないでしょうか．たとえばこれは普及のため，これは純粋な研究のためとか．場合によっては学会から補助する事業があってもかまわないでしょう．とにかくOR学会の活動であるという看板を掲げて，効果を上げるということがひとまず必要なことで，収入があるかどうかは，実情に応じて考えたらいいのではないでしょうか.

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

D　今の体制ですと，学会に経済的にプラスというのは一部の管理費しかないわけですね．

A　委託研究にかぎればそうです．あと報告書をつくってそれを販売し，さらに収入を図ることもあるわけです．印刷代位赤字になっていることもあります．赤字になっても報告書が一般に利用され，普及に役立つということであれば，赤字になってもやることはあり得るということです．

研究発表会

B　では最後に研究発表会についてお話を伺いたいと思います．たとえばペーパー・フェアというのは，会場によってはできない場合もあると思いますが．

J　ペーパー・フェアがうまくいくかどうかは，会場のスペースによるような気がします．

K　ペーパー・フェアについては，広い所で並べてやった場合もあるし，狭い部屋で二つが向い合ってやった場合もあります．研究発表会ごとに形式が非常に違うし，それがあらかじめわからないのも困りますね．

G　本当に会場でいろいろな問題が生じますね．ペーパー・フェアをはじめてやったのは北海道だったのですがその時使用されたのは非常に大きな部屋でした．ところが宴会場なので音響効果がよく，遠くの声が聞こえてしまい，結局全員が大声をはり上げることになったわけです．

今度(1977年3月の春季研究発表会)の場合も，部屋が狭いためか，非常に聞きづらかったように思います．

A　前回の名古屋の場合はよかったですね．あの位部屋が大きいと，音も影響しないようですね．

C　それにペーパー・フェアの場合には，会場に自由に出入りができなければならない．つまり後ろが開放されていることが重要なことだと思います．使用する部屋によっては，発表者が邪魔になって出入りができない場合がある．そうすると一般の研究発表とほとんど変わりがなく，しかも雑音が多いということになってしまうわけです．私は毎回研究発表会には参加しておりますが，やはり名古屋の場合が，ペーパー・フェアについてはもっともうまくいっていたのではないでしょうか．

M　少し話は違いますが研究発表会の形式ではなくて，研究発表の内容についてお話したいと思います．支部の人たちの意見でよく耳にするのですが，発表の内容がよくわからない，つまり短時間で本題に入り，むずかしい数式がたくさん出てきて消化しきれないというのがあります．まあ学校関係の方はそれが仕事だからいいんですが，会社関係の方にとっては，OR学会はとてもむずかしいことをしている学会でついていけない，ということになるわけです．そしてだんだん敬遠され，退会する人も出てくる．

そこで，むずかしい式も必要でしょうけれど，もう少し素人向きに説明する工夫もしていただきたいということです．それから理論と実践というのは，ORにおいて車の両輪のようなものだと思いますが，少し理論に片寄っている傾向があると思われます．研究発表会で実践に関する発表が半分位占めると，現在の会員に研究発表会への参加を積極的にすすめることができるように感じます．

F　今の意見は，このサロンのために，支部の会員にいろいろ聞いた結果，多くの会員が指摘したことです．

A　これはOR学会の根幹にかかわる問題ですね．運営上ではカバーできないむずかしい問題です．

G　今日数学の専門家と雑談したんですが，数学会の研究発表会へ行っても全然わからないのだそうです．つまり他人のいっていることはわからない．ただ聞いているだけなのですね．それに比べるとOR学会はまだましではないでしょうか．

L　いや，実際の企業にいる人間にとっては今お話の数学会と同様に，OR学会の発表はわからないのです．自分のやったことのある狭い分野ならわかるのですが，少しはずれるとわからないですね．これはORをどうするか，学会をどうするか，という大きな問題なので，少し根本的に考えたいと思います．すぐいい意見が出るとは絶対思えませんが．こういう声は昔からもう随分あるんです．

H　そうですね．生臭い問題や泥臭い問題を発表する場というのはなかなかつくれないのです．昔，私はかまわず研究発表会でそういう問題について発表しました．それに対しては，もっと簡単な式でできる，といわれたり，いろいろ冷やかされましたが，参加することに意義があると思っていました．あえてやらないといけないのではないでしょうか．

L　同感ですね．ただそのとき，企業の人はコンプレックスを感じがちなのですね．ですからかまわずやる人と2回目から発表するのが嫌になる人と，二つのタイプがあるように思います．

E　もう一つの場合があります．企業の戦略的な話になると，トップから了承されないと喋れないということがあります．まあ企業秘密とまではいかなくてもですね．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

F　しかしそういうものも抽象化して，具体的でなくても発表する努力を企業の人はしなければならないと思います．逆に企業の人の泥臭い話に対して，大学の人も「そんなつまらないもの」といわないで，何かを見出す努力をしてほしいと思います．

K　私は「そんなつまらないもの」なんて全然思ったことはありません．

D　今，企業の方は泥臭くて恥ずかしい，大学の方は数式がむずかしい，と両方出てきました．私も確かにそう思いますけれども，しかし，重要なのは発表の方法や技術なのではないでしょうか．むずかしくても発表の技術が上手だと，結構わかりやすくなります．たとえば今回の茨木先生のご発表など相当程度が高いと思うんですが，聞いていて非常によくわかります．何か本質的なところを押えていえば，どんな人にもわかるのではないか，ですから発表者はもっと工夫する必要があるように思います．しかしどうしてもそれがむずかしい，つまり時間をかけて読まないとわからない，というのは，研究発表会ではなく直接論文誌で発表すればよいのではないでしょうか．

C　企業の人間にとっては，むずかしい数式を解くことにはあまり興味がないわけです．それよりも何を問題にして，それに対してどのようなアプローチをしたか，がわかればこちらとしては満足なのです．ところがそのような点についての説明がない発表が現実には多いのです．ですから座長の方に，この発表はこういう分野でとくにこの点だけに重点を置いたものです，といった具合に紹介してもらうといいように思いますが．

G　事前に座長が準備しておかないと，そのようなことはできないでしょう．急に今日座長をやってくれといわれたら，とても無理です．

L　どだい全部わかって帰ろうなんて虫がよすぎると思うのですが．いくつかわかったらそれでいいのではないでしょうか．学会なんてそんなものだと思います．

N　私も今のご意見に賛成です．全部わからなくても，自分の興味をもっている問題に近いものを誰がやっているか，という情報をもって帰るだけでも十分価値があると思います．

F　全部わからなくてはといっているわけではないのです．どうも自分に関係ありそうだと思ったものに対しての話です．発表を聞いてもよくわからないので，たまたま懇親会で一緒になった機会に質問すると，少しは自分に関係があったということが後でわかるわけです．

D　学会の研究発表会というのは，OR学会にかぎらず数学会等でも，ご意見で出ましたようにわからないものが大部分だとは思います．けれどもせっかく集まるわけですから，だいたいどんなことがやられているか，というのがまったくの素人の人にでもわかるように発表を工夫してくださいと勧告した方がいいのかもしれません．

N　しかし，中にはいくつになっても数学や論理の発表が要領を得ないという人物がおりますね．性格的なもののようで，まったくチンプンカンプンの話を延々とやるわけですが，そういう点はどうも直らないようです．

C　私は日本経営工学会にも入っているのですが，OR学会と比べると，会の運営の仕方は日本経営工学会のほうが親切だという感じがします．まず研究発表会の2，3カ月後に1編につき400字程度の要約集が出ます．またアブストラクト集における1編のページ数は，日本経営工学会のほうが3倍程多く平均6ページ位あるわけです．ですから研究発表会に参加できなかったり，参加していても聞きそこなった場合，予稿集である程度のことはわかるようになっています．ところがOR学会のアブストラクト集では読んでもそこまではわからないと思います．地方の会員はなかなか研究発表会には参加できないので，アブストラクト集を変えて予稿集のようなものにし，発表の内容をある程度わかるようにすれば，これが学会と地方を結びつけるいちばんのパイプとなると思うのですが．

D　アブストラクト集の充実というのは考えられますね．

A　これは非常に重要な問題です．他の費用を削っても，アブストラクトのページ数を増やす費用を出すべきだ，というような議論にもすることはできるでしょう．今の状態では1編あたりのページ数が少なすぎるわけですから，超過分のペナルティーを支払わせるのはどうかと思いますが．

第8回 IFORS 国際会議への参加申込みについて

標記 IFORS 国際会議は，きたる6月19日(月)から，6月23日(金)までカナダのトロント市ホテル・トロントで開かれます．プログラムはすでに決定し，申込み用紙が学会事務局に届いております．この会議に出席する日本OR学会代表団の割当ては34名で，申込締切りは4月15日ですので，会員からの申込書は3月31日までに学会事務局に届くようにお送りください．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

D　現在の2ページという制約で，ずいぶん無理して縮めている人は多いと思いますので，ペナルティーを払ってもいいから増やしたい，という人はかなりいるのではないでしょうか．

J　私の過去数回発表した経験からいいましても，圧縮するのがやはりいちばん困りました．イントロダクションを書こうとすると，それで終わってしまい，自分のやったことは当日喋ることになってしまう．逆に自分のやったことを書くと，イントロダクションは書けないことが多かったように思います．それと発表形式がペーパー・フェアか一般発表かによって，アブストラクトの書き方を変えたほうがいいように思います．

L　ただ昔は，発表のあとで論文にして投稿してくださいということになっていたわけです．ですからアブストラクトはエッセンスだけでもよかったのです．しかし最近学会誌の刊行形式も随分変わりましたので，もう一度検討すべきでしょうね．

F　いま広島での研究発表会の準備をしていますが，会場の関係でペーパー・フェアはできそうもないので，アブストラクトのページを増やすことを考えています（4ページで実施）．もしこれが実現されれば，従来のやり方と比較することができるかと思います．

M　10年前に比べて，研究発表会の参加者の内訳では，大学の人が増し，企業の人が減っているように思います．企業の人にとって，研究発表会に対する興味が薄れつつあるようですが．

E　現在では，会社から学会の研究発表会への出張命令が出ると，嫌がります．報告を書くとき，どれが会社の役に立つかといわれるのが辛いわけです．

L　何に役に立つかわからないけれどやっている，という研究も多いですからね．もちろんそれは必要なことだけれど，一言書いておいてもらうと助かります．

D　そろそろ時間になりますので，少し研究発表会に付随して行なわれる見学会についてお話したいと思います．明日の見学会の参加予定者は今のところ，わずか3名という状況です．東京での見学会は今後やめたほうがいいのではないでしょうか．

C　昨年も同じような話が出ていました．宣伝が不足しているという面もありますが．

O　地方では逆に必ず見学会をやらなければならない，ということはあるんですか．

E　名古屋での場合は，参加者が40人位で，なかなか盛況だったと思いますが．

N　私も計画した経験がありますが，本当に見学会は必要なのでしょうか．

A　見学会を義務づけないということにしたら，という意見が出ていることは確かです．

O　見学会といっても，観光旅行ということでしたら，むずかしいことはないのです．ただORに関連した見学ということになりますと，大変な面が出てきます．

A　まあそう堅苦しく考えないで，観光旅行でもいいのではないでしょうか．

第11回ORサロン：「学会活動に望む支部の声」

日　時：昭和52年3月18日(金)　16時～18時

場　所：早稲田大学理工学部2階小会議室

出席者：

北海道支部　加地郁夫（北大），浅利英吉（東海大）
東北支部　御園生善尚（東北大）
中部支部　平石義則（神鋼電機），岩田　怜（名鉄）
関西支部　朝尾　正（田辺製薬），茨木俊秀（京大）
中国四国支部　権藤　元（中国電力），平木秀作（広大）
本　部　原野秀作（日本システム），高橋磐郎（早大）
研究普及委員会：三浦大亮（東レ），山内慎二（NHK），杉本栄司（早大），腰塚武志（東大）

司　会：山内慎二

記　録：杉本栄司，腰塚武志

(社)日本オペレーションズ・リサーチ学会細則の一部改訂

改訂部分――，（　）内は現在のもの

第18条　役員の会務の分担は次の表による

理事

会　長	（定数1）	法人の代表，会務の総理
副会長	（〃　3）	企画・調整・統合
庶　務	（〃　3）	組織管理・人事・会議・文書・設備・総会
国　際	（〃　1）	IFORS 等国際交流
研　究	（〃　2）	研究・教育・研究受託・秋(春)季研究発表会
編　集	（〃　2(1)）	会誌・出版・広告
会　計	（〃　1）	会計
無任所	（〃　3(4)）	＊理事会の決定による特別な会務，春(秋)季研究発表会
監　事	（〃　2）	民法59条の職務

注＊　うち2名は支部所属会員とする．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．